

諫干開門求め、農水省前で座り込み



大雨の中、農水省前で「アセスによらない開門」「開門時期の明示」「農業用水確保」を訴える有明海漁民ら

よみがえれ！有明海・国会通信

よみがえれ！
有明訴訟弁護団
(後藤富和)発行
092-512-1636
090-9602-0700

願い
農漁共存
即時開門
農業用水
防災対策

開門時期明示を

【佐賀・5月25日】国営諫早湾干拓潮受け堤防の即時開門を求める訴訟団が24日、農水省前で座り込みを行い、環境アセスメント抜きでの「1日も早い開門」を訴えた。赤松広隆農相と民主党に、漁業と農業が両立できる対策を取り、即時開門を求める要望書を提出した。

原告・弁護団や支援者ら約60人が参加。佐賀市のノリ漁業川崎賢朗さん(49)と太良町のタイラギ漁業平方宣清さん(57)も参加。平方さんは「農業と両立できる方法はある。農水省は決断すべき」と声を上げた。

夜は80人が参加して緊急集会も開催。弁護団などが即時開門の方法として、2002年に農水省が行った短期開門の手法でスタートした後、代替水源や排水ポンプ設置などの対策を取りながら開門する「段階的開門」を説明し、「この方法なら今すぐ開門は可能」と訴えた。

この日は日本野鳥の会、ラムサール・ネットワーク日本、日本自然保護協会、世界自然保護基金ジャパンの4団体も早期開門を求める共同声明を発表、赤松農相に提出した。

赤松農相は5月中にも正式に「開門方針」を打ち出す考えだが、口蹄(こうてい)疫問題対応のため、6月にずれこむ可能性も出ている。

諫早長期開門の意向、赤松農水相が

伝達へ長崎県側に



伴野民主副幹事長に開門要請

【朝日・5月27日】郡司彰農林水産副大臣は27日の記者会見で、国営諫早湾干拓事業(長崎県)をめぐって31日に長崎県を訪れる予定の赤松広隆農水相が、中村法道知事らに「潮受け堤防排水門を長期に開門調査したい」との意向を伝える、との見通しを明らかにした。

郡司副大臣は「そのような方向で話し合いたいというのが主。個別具体的なことで投げかけし、答えを求めるということではないだろう」と述べた。赤松農水相は5月中に決断して表明する方針だったが、郡司副大臣は「ちよつと難しくなっている」とも語った。

諫早湾干拓事業、社民、開門調査に「賛成」長崎県連が方針転換

【毎日・6月1日】国営諫早湾干拓事業(諫干)の開門調査を巡り、社民党長崎県連(吉村庄二代表)は31日、開門調査を国や県に求める方針を決めた。同党県連はこれまで諫干事業は推進の立場で、方針転換となった。

吉村代表は「有明海の漁業不振が続く、漁民の窮状を何とかしようという意見が県連内部で出ていた。干拓地の背後地などの防災対策を万全にすることを条件に開門調査を訴えたい」と語った。